



GIGAスクールの行き先は…

国の緊急事態宣言が先月末で完全解除されました。本来でしたら今日は6年生の修学旅行なのですが、出発日が9月のために実施することができませんでした。しかし、何とか11月に延期日を確保する事ができました。これからは運動会や作品展などの大きな行事が続き、円滑な教育活動が課題となります。引き続き感染症対策を行いつつ、工夫しながら取り組んでいきたいと思っています。

さて、コロナ禍で一気に進んだ感のある学校ICT。堀江小学校では、文部科学省のGIGAスクール構想の前倒しで配付された1人1台端末を本年度から本格的に活用し、普段の授業だけでなく、臨時休業中や登校不安の児童に向けて双方向通信を利用して授業を行うなど様々な取り組みを行っています。リモート学習では丁寧にみることができないもどかしさや、通信の不具合など課題もたくさんあるのですが、そもそもどのように使うのかすらわからなかつたところからの出発です。これまで本校がICT先進校として培ってきたものを生かして、どんな時も学びを止めないようにしたいと考えています。

ところで、ICTと言えば、双方向通信のリモート学習ばかりが話題になりがちですが、大阪市の学校教育ICTは、基本方針の一つに「個別最適化された学び」を掲げてスタートさせています。例えば、今年の2学期より導入されたデジタルドリル「navima」は、AIを活用して、間違えたら次にそのつまずきに合わせた基礎問題が出てきます。スタートは一緒でも、それぞれが違うルートでゴールを目指すように、最短距離でゴールにたどり着く子どももいれば、回り道をしてゴールにたどり着く子もいます。しかし、誰もが必ずゴールにたどり着くことができるようになっています。

また、学習面だけでなく、毎日の自分の心の状態を太陽のマークで表す「心の天気」は、児童が自分を見つめて気持ちを整理するだけでなく、教員にとっても子どもの気持ちをキャッチするきっかけになります。本校のようにたくさんの子どもが教室にいる中で、先生の気づきが促されるのは、ありがたい事です。

さらに、1人1台端末では、これまで紙ベースで行っていた「いじめアンケート」を端末で回答したり、子どもが学習や生活の事を先生に相談しやすくする「相談機能」が追加されたりするようになっています。(10月下旬ごろのリリースと聞いています。)

この他にも、デジタル教科書では、児童の思考に沿って画面上で説明を展開したり、動画コンテンツを使って様々な現象を観たりすることができるなど、紙と鉛筆だけで学習していた私の子ども時代を思い出すと、ずいぶんと様変わりした感じがします。もし停電になったら何にもできないのでは?といらぬ心配をしてしまうくらいです。しかし、国の中央教育審議会は、こうした様々な機器やソフトを利用し、従来の日本型の学校教育を発展させていくことが、「令和の日本型学校教育」の構築に必要であると答申しています。ですから、



堀江小学校では、ICT機器は、使う事を目的とせず、文房具のようにそれを使って学びを深めることを目的として教育活動をしています。(その研究成果の一端を、11月にJAET（日本教育工学協会）の全国大会でオンライン発表する予定です。)

では、一方でそれらを使う側、つまり子どもの方はどうでしょう。生まれた時からこうしたデジタル機器に囲まれて、それらが当たり前の世の中に育っています。操作という面では使いこなせている子どもも多いのですが、便利の裏側に潜む危険については十分理解しているのでしょうか。先日東京で起こった学校配布の端末を使いたいじめ事案は、その負の面を象徴しているような気がします。誰でもログインできる共通のパスワードなど、端末管理の不手際はあったでしょうが、それ以前にネットリテラシーと言われる、インターネットを正しく使いこなすための知識や能力を子どもたちが身につけていたのでしょうか。本校でも、高学年になればLINEなどSNSでのトラブルが実際に起こっています。子どもたちは、面と向かってならば絶対に言わない言葉遣いや、エスカレートした書き込みなど、後から悔やんでもどうしようもない事をネット上ではしまいます。また、健康面でもゲームのやり過ぎと同じく、たとえ勉強であってもデジタル機器の使い過ぎは、身体に負担をかけます。



子どもたちの学びの幅を広げるICTを、何でもできる魔法の杖ではなく、正しく使いこなせる道具としていくことが、本当のICTの使い方であると思います。学校では、強調週間を設けるなどして端末の正しい使い方について考えるよう指導しています。ご家庭でも、ゲーム機やスマートフォンなどの端末の使い方について、ぜひお子さんと話し合ってみてください。

登下校時の防寒について

10月からは標準服が冬服になります。まだまだ暑いと感じる日が多いのですが、あと1ヶ月もすると、冬の足音が聞こえてくるような寒さを感じるかもしれません。

堀江小学校では、これまで標準服の上には防寒着を着ない、タイツを履くときには連絡帳で連絡する、など冬の服装について細かい約束事がありました。昨年赴任した私は、身体を鍛える目的というこれまでの経緯を尊重しつつ、少しでも子どもたちと同じ気持ちを味わおうと、毎朝の登校指導の時は真冬でもスーツ姿で門の前に立ち続けました。

その結果思ったことは、「寒いもんは寒い！」でした。冬の寒さは熱中症のように命に関わるものではありませんが、一定の防寒は必要だと思います。ですから、今年度は、冬の服装規定を少し見直そうと考えています。また、製作の都合上実現しても次年度以降になりますが、長ズボンの設定も検討しています。(後日アンケート調査を行いますのでご協力ください。)

ただし、学校の服装については、何でも自由というのではなく、標準服をベースに一定の秩序が必要だと思います。学校は学びの場所であって、遊び場ではありません。登下校時の防寒着については、保護者と子どもがその目的を間違えないように一緒に考えていただければと思っています。



さすがにこれはないでしょうが…